

大学名 北海道大学(広域複合災害研究センター)

第61号テーマ
「レジリエント社会の構築に向けて」

表題 分野横断的な自然災害・防災研究の推進と効果的な防災教育・人材育成の実践

特色ある取組

北海道大学広域複合災害研究センターでは、現象論的な専門分野に偏ることなく、**地域の特性と人間活動を反映した災害予測・軽減対策を研究し**、その成果を**大学院生や官公庁、民間企業の技術者へのリカレント教育及び地域社会のリーダー育成**に生かしていくことを目的としています。これまでに北海道開発局や北海道立総合研究機構と協定等を締結し研究教育面での連携を図るとともに、自然災害や防災・減災方策に関するアンケート調査を北海道内179市町村を対象として実施し、行政ニーズを踏まえた災害研究を進めています。また、日頃の研究成果を広く公開する場として、主に地域住民や市町村防災担当者を対象とした**防災シンポジウムを行政機関やマスコミ等と連携しながら毎年主催**しています。さらに、センター所属教員のほか、実務経験豊富な外部講師を招へいして**大学院共通科目「国土保全学総論」**、「**突発災害危機管理論**」を開講しています。最新の研究やイベント情報はニュースレターとして道内179市町村を始めとする関係機関に配信しています。

期待できる成果・評価 など

地球規模の気候変動や活発化する地殻変動により、近年、豪雨や地震に起因する自然災害が頻発しています。自然災害が広域で発生すると、人命や財産など生存基盤、農林畜水産業や電力・水・交通網などの産業基盤に大きな被害が生じます。北海道は、我が国の食料生産基地であるにもかかわらず、一極集中・過疎化という第一次産業の空洞化を示す地域で、**災害に対する脆弱性は我が国の社会経済にも深刻な影響**を及ぼします。こうした現状を踏まえ、広域複合災害研究センターは、農、工、理、文、経済および医学などの多面的なアプローチから**異分野融合を柱とした総合的な災害研究**を行い、その成果を**大学院レベルでの教育に活かした人材育成**を目指しています。今後、災害研究成果の発信、防災教育を通じて、**北海道の防災拠点としてレジリエント社会の構築に貢献**することが期待されます。

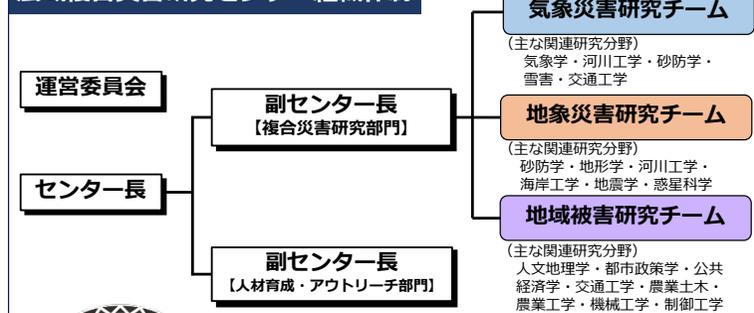
地域住民を対象とした防災シンポジウムの実施状況



大学院共通科目の講義風景（左）と現地見学（右）の様子



広域複合災害研究センター組織体制



参考URL

・広域複合災害研究センターHP

<https://www.cnhr.info/>